

## 平成 29 年度 認定発達しょうがいアドバイザー及び 認定発達しょうがい療育士 初級研修会」報告

～参加者の声～

### ○滝澤 武(会員、帝京大学)



6月13日にNPO法人生涯発達研究所の3周年記念講演会(栃木県壬生町)が開催された。テーマは「脳を鍛え、個性としての発達しょうがいを生かす」と題して宗像恒次学会長(筑波大学名誉教授)とハーバード大学臨床准教授であるジョン・J・レイティ博士が講演された。

近年、発達しょうがいと言われる子どもが増加し、この子どもたちに対する理解と対応が重要な課題となっているものの、発達しょうがいに対して適切な対応ができる方は限られている。その中で、NPO法人生涯発達研究所・ヘルスカウンセリング学会・筑波大学発 SDS 情動認知行動療法研究所・日本精神保健社会学会の4団体連合による「認定発達しょうがいアドバイザー」及び「認定発達しょうがい療育士」制度が創設された。

「認定発達しょうがいアドバイザー」の研修では 発達しょうがいとは？(定型発達 vs 非定型発達)、発達しょうがいのアセスメント - 自閉スペクトラム症、ADH 症、知的発達症、限定性学習症、発達しょうがいの脳科学、ADH 気質と自閉スペクトラム気質が陥りやすいストレス症などについて学んだ。また、「認定発達しょうがい療育士」での研修では宗像会長の開発した SAT 情緒安定化法とレイティ博士が顧問をしている SPARK メソッドを中心に研修が行われた。今回の講演会では宗像会長から「個性としての発達しょうがいをいかす脳科学」レイティ博士から「脳を鍛えるには運動しかない」というテーマでお話を伺うことができた。お二人の講師から脳科学から発達しょうがいをとらえ、適切な療育を行ううえでヒントを得ることができた。

今回は栃木県壬生町での開催であったが、今後は全国で、このような研修会が開催できることを期待したい。

### ○黒須美代子(会員)

強く印象に残りましたのは、宗像恒次博士の講話のなかで、脳の特徴から読み解く ADH 症や自閉スペクトラム症の発達しょうがいの解説からの「発達しょうがいは、しょうがいでではなく個性です。脳種族の違いです。」という結論でした。ADH はリーダー気質であり、自閉スペクトラム症は職人氣質であり、かつ感覚過敏を個性や才能として活かすことができるそうです。しかしながら、ADH 症にしても自閉スペクトラム症にしてもストレス症が加わると問題化しやすくなると考えられ、個性を活かすことは容易ではなくなります。その解決策として、SAT 法によりストレス症を解消し遺伝子どおりの個性を活かせるようになるというお話は大変興味深いものでした。

ジョン・J・レイティ博士の講話では、運動刺激によって脳神経系や身体にとって好ましい脳神経伝達物質が分泌されるため集中力が高まり、またアディクション等のネガティヴ

な行為は少なくなりますが、運動刺激を中止すると脳神経伝達物質の分泌は元に戻るそうです。そのため、散歩などの有酸素運動や筋力トレーニングは継続することが大切とのこと。運動を実践している高齢者の事例に触れ、年齢にとらわれず、運動継続を実し  
て、その効果のほどを体感してみたいと思いました。